

RPPFでJIS認証取得

三光地元の排出元から反響

産業廃棄物処理・リサイクル、石油製品など各種燃料販売などを手掛ける三光（本社・鳥取県境港市、三輪陽通社長、☎0859・44・5367）は2

月17日、RPPF（廃棄物由来の紙、プラスチックなど固形化燃料）製造に係るJIS（JIS Z 7311）の

認証を取得した。認証機関は（財）日本品質保証機構（JQA）。三輪社長は「産業廃棄物処分は1988年から本格に行ってきたが、どこちらかと言えば、裏方的な事業だった。JISに基づく『工業製品』をつくることは表舞台に出ることだ。規格に基づくとクリーンな工場、RPPFの普及に努

めたい」と述べた。

同社は石油製品販売事業からスタートし、廃油の収集運搬、処理事業へと業態を広げてきた。88年の産業廃棄物焼却プラント（境港市昭和町）をはじめ、その後、再生処理・焼却発電を行う江島工場（島根県松江市）、潮見工場（鳥取県境港市）、鳥取堆肥工場などを竣工した。昭和工場では、廃タイヤリサイクルも手掛けている。

RPPF製造プラント

は、03年9月に江島工場内に設置された。今回、JISで認証されたのは同工場で、認証製品はRPPF-A、B、Cになる。品質管理体制は基準Aとなっている。

認証取得は地元紙でもいち早く報道され、地元の排出事業者から反響があった。原料調達など入口の業務がやりやすくなったことにも、社内でのチャレンジ精神向上などにも効果があったとしている。



矢野志行JQA理事と三輪陽通社長(右)